

地学基礎

最後まで練習を積み、満点にこだわろう。

I. 全体講評

今回の得点分布は、次のようになっている。平均点は26.2点であった。10月に実施した全国統一高校生テストの平均点よりも上がり、順調に知識を定着させられている受験者が増えているようである。「地学基礎」は「地学」に比べて学習項目が少なく、教科書をしっかりと理解することで十分に満点を狙える科目である。一つ一つの知識を確実に身につけて、着実に得点を伸ばしていくようにしよう。

II. 大問別分析

第1問 地球

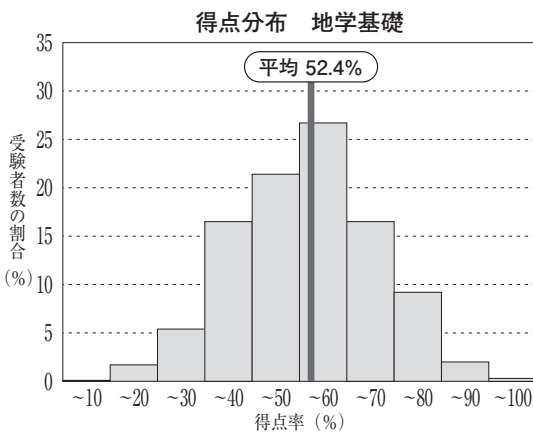
地球と岩石に関する知識を整理しよう。

Aでは地震の観測と日本列島の地震についての基礎的理解を確認した。初期微動継続時間と震源距離に関する問題はセンター試験では頻出である。日本列島の海溝型地震、プレート内地震、深発地震についてまとめておこう。

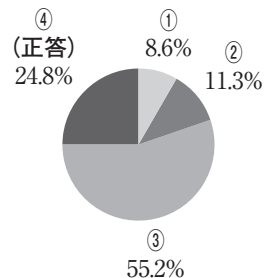
Bでは地質構造と地球の歴史についての理解を確認した。示準化石に関する問題もセンター試験では頻出である。実物や写真で確認しておこう。また、地質構造の読み取りも練習しておこう。

Cでは原生代の生物についての総合的理解を確認した。生物の変遷に関する問題は2017年と2015年のセンター試験でも出題されている。生物の変遷は地球に起こった出来事とともにまとめておこう。

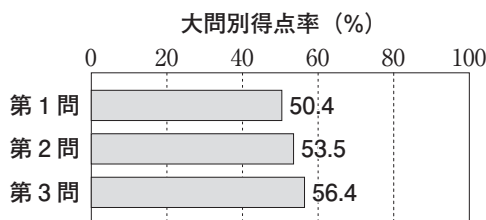
Dでは岩石の組織についての総合的理解を確認した。花こう岩に関する問題は2016年のセンター試験で、変成岩の組織に関する問題は2018年のセンター試験で出題されている。選択肢の4つの図で実際に格子点を数えて色指数を計算してみよう。



問3 [7] 各選択肢の選択率



※注) 無回答・マークミスは割愛したため、
選択率の合計は100%にならないことがある。
以下同様。



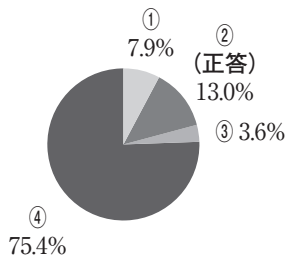
第2問 水の循環と台風

仕組みを理解して考えよう。

降水量と蒸発量の緯度による違いと大気大循環の

関係、水の循環、台風についての基礎的理解を確認した。水の循環に関する問題は2015年のセンター試験で出題されている。地学基礎でも計算問題が出題されるが、決して複雑なものではない。落ち着いて取り組もう。また、解説の図を参考に、地球規模の大気の動きを確認しておこう。

問3 [10] 各選択肢の選択率

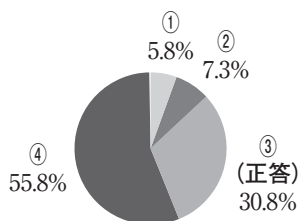


第3問 太陽の進化

太陽誕生から終末までをイメージしよう。

太陽の誕生と進化についての基礎的理解を確認した。太陽の誕生については2018年のセンター試験でも出題されている。また、太陽の構造や自転、黒点など、太陽に関する問題はセンター試験では頻出である。太陽はもちろん、太陽系の天体についてもしっかり復習しておこう。

問2 [14] 各選択肢の選択率



Ⅲ. 学習アドバイス

◆これからの学習について。

もう一度、教科書を通読しよう。各分野それぞれの論理展開を再確認するとともに、図、表、グラフについて理解があいまいな点がないようにしよう。

入試本番では、必ず見直す時間を確保したい。例えば、センター試験では2科目試験時間60分のうち、10分程度を見直しにあてられれば理想的であ

る。そのためには普段から制限時間よりも短い時間を設定し、負荷をかけた演習を行うことが有効である。また、入試本番では、塗り残し、マークのずれはないか、など確実にマークできているかの確認を必ず行おう。

◆模試を活用しよう。

これから先の期間は、新しい問題集などに手をつけるのは避けよう。センター試験の傾向を把握し、時間配分の訓練をするためにも、過去問は徹底的に演習を積もう。

また、今まで取り組んできた模試問題の復習に注力してほしい。見たことはあるが、解けなかったという悔しい思いをしないように、今まで自分が学習してきた内容を最後の最後まで徹底的に復習しよう。特に、これまでの模試の解説を見直すことは直前対策として有効である。センター試験では過去問と類似した内容が出題されている。また、解説をしっかりと読み込み、疑問点を残さないようにしよう。やりっぱなしでは効果がない。

今まで受けてきた模試の結果から、自分の得手不得手が改めてみえてくるはずである。それらの結果をもとに再度弱点を補強しておこう。